

島大医学部

マタニティー 医師向け開発



マタニティー白衣。左が薬剤師、右が医師用＝出雲市塩冶町

島根大医学部（出雲市）は妊娠中の医師ら向けのマタニティー白衣を開発し、16日公開した。看護師用はあるが医師用はなかった。近く商品化して販売する。きっかけは昨秋、付属病院ワークライフバランス支援室への女性医師の相談だった。出産経験がある内田

伸恵室長は「ボタンを外したり、男物を着たりしていた」と振り返り、「なげれば作ろう」と学内の産学連携センターを通じて雲南、広島市の白衣メーカー2社と共同開発に取り組んだ。妊娠中の医師や薬剤師らの試着を通して改良を重ねた。ベルトの調整でおなか

の大きさに合わせられ、しわも寄りにくいすっきりしたデザインに仕上がった。妊娠9カ月の仲田典子医師（29）は「着心地がよく、デザインも評判がよい」と気に入った様子。小林祥泰病院長は「スマートな白衣を着て活躍してもらい、子育てしながら働き続けられる環境を整えていきたい」と話した。

と話した。

※本記事は朝日新聞社の承諾を得て掲載しています。
朝日新聞社に無断で転載・転用することを禁止します。